

～多様な社会を生き抜く力を培う定通教育を考える～

一人ひとりを伸ばし輝かせる教育の実現
～5つのアクションによる教育のアップデート～

新潟県立出雲崎高等学校

1. 本校の沿革、教育の概要 等

2. 令和5年度当初の状況とそこからの気づき

3. 令和6年度の成果(過去3ヶ年平均との比較)

4. 令和5年度からの3ヶ年における主な取組

5. 5つのアクションによる教育のアップデートの具体

(1) アクション1 : スクールポリシーの策定

(2) アクション2 : アセスメントツールの導入と活用

(3) アクション3 : パッケージ化した職員校内研修の実施

(4) アクション4 : 新・生徒指導部の立ち上げ

(5) アクション5 : 「生徒指導提要」に基づく委員会の組織改編

6. 成果・課題と今後について

出雲崎高等学校の概要

■所在地

新潟県 三島郡 出雲崎町



(参考) 出雲崎町の紹介

- ・人口 約3600人 (高齢化率 県内3位)

- ・自然と産業

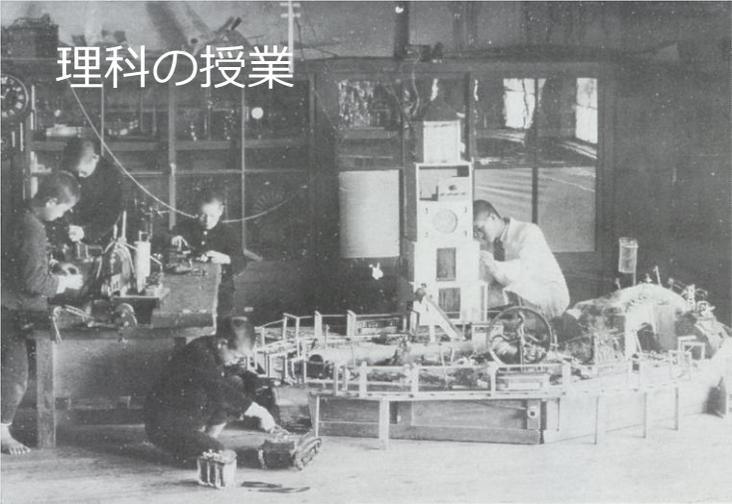
山間部と平野 = 農業 海岸部 = 漁業

- ・歴史 江戸時代 = 幕府直轄地 (天領)

- ・課題 **人口減少、高齢化の進行 等**

“出雲崎高校の存続” は町の課題の一つ

■沿革 (“本校の沿革” の前の歴史)

年	西暦	
昭和7年	1932	自由な教育を求めて、村立の「心耕学園」が創設 ※ユニークな新しい教育実践 → 県内外から教育関係者が多数視察に訪れた
 校長 布川準一郎氏	 理科の授業	 社会の授業
昭和15年	1940	(校長の退職及び病死、戦時体制の広がり) 創立8年後閉校
		 学校視察者

第 2 次 世 界 大 戦

年	西暦	
第 2 次 世 界 大 戦		
昭和23年	1948	西越 <u>村立</u> 新潟県西越 高等学校 開校 (定時制)
昭和27年	1952	新潟 <u>県立</u> <u>西越</u> 高等学校 校名変更 (全日制)
平成14年	2002	<p>※<u>定時制の単位制高校へ改組</u></p> <p>↓</p> 新潟県立 <u>出雲崎</u> 高等学校 校名変更
平成20～21年	2008 ～9	文科省委託事業 <u>「高等学校における発達障害モデル事業」</u>
令和元年	2019	1 学級募集開始 (現在に至る)

■ 募集定員

定時制・普通科（午前部）

1学級35名 募集

■ 在籍生徒数（R7.5.1現在）

全校で **91名** 内訳

1年次 35名

2年次 21名

3年次 35名

4年次 0名

■ 教職員構成

校長、教頭 各1名

教諭 **17名**（常勤講師2名を含む）

非常勤講師 5名

養護教諭、養護助教諭 各1名（**保健室2名体制**）

SC＝週1日勤務、SSW＝月1日勤務（追加派遣可）

■ 教育課程

■ 必修科目 ■ 選択科目

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	必修科目	選択科目
1年次	現代の国語	言語文化	地理総合	歴史総合	数学Ⅰ				科学と人間生活	体育	保健	英語コミュニケーションⅠ	家庭基礎	情報Ⅰ	芸術Ⅰ※												自己探究 総合的な探究の時間	28	2			
2年次	公共	生物基礎	体育	保健	選択科目																									10	20	
3・4年次	体育	選択科目																												4	26	
																														42	48	

※1年次の芸術Ⅰは、音楽Ⅰ、美術Ⅰ、書道Ⅰの中から1科目を選択する。

■ 単位制 74単位以上で卒業

※中学生への説明のキャッチフレーズ

【ハイブリット型教育】

- 学習方式 **単位制** (1～6限まで授業 ※全日制高校と実質同じ)
- サポート体制 **定時制**

1. 本校の沿革、教育の概要 等

2. 令和5年度当初の状況とそこからの気づき

3. 令和6年度の成果(過去3ヶ年平均との比較)

4. 令和5年度からの3ヶ年における主な取組

5. 5つのアクションによる教育のアップデートの具体

(1) アクション1 : スクールポリシーの策定

(2) アクション2 : アセスメントツールの導入と活用

(3) アクション3 : パッケージ化した職員校内研修の実施

(4) アクション4 : 新・生徒指導部の立ち上げ

(5) アクション5 : 「生徒指導提要」に基づく委員会の組織改編

6. 成果・課題と今後について

本校の令和5年度当初の“職員の多様な考え”

【A先生】



- ・本音では注意したいが、注意すべきが迷ってしまう
(注意したら、その影響で不登校になるかも……)

【B先生】



- ・“高校に通って来るだけでも素晴らしい!”と受け入れよう
(今まで、それすら出来なかったのだから認めよう)

【C先生】



- ・生徒にここまで“配慮”するのかと、見ている疑問を感じる
(これで「高校」として良いのだろうか……)

“職員の声（多様な本音）” からの 気づき （今回の取組の原点）

①教育哲学 ②教育理論 ③教育技術 ④教育実践

の4つを一体化させた仕組みが必要である



“教育串団子”と
勝手にネーミング

1. 本校の沿革、教育の概要 等
2. 令和5年度当初の状況とそこからの気づき
3. 令和6年度の成果(過去3ヶ年平均との比較)
4. 令和5年度からの3ヶ年における主な取組
5. 5つのアクションによる教育のアップデートの具体
 - (1) アクション1 : スクールポリシーの策定
 - (2) アクション2 : アセスメントツールの導入と活用
 - (3) アクション3 : パッケージ化した職員校内研修の実施
 - (4) アクション4 : 新・生徒指導部の立ち上げ
 - (5) アクション5 : 「生徒指導提要」に基づく委員会の組織改編
6. 成果・課題と今後について

令和6年度の成果 ～過去3か年平均との比較～

	令和3～5年度	令和6年度
① いじめ認知件数（件/年）	19.5件 ※1	12件
② 生徒指導件数（件/年）	24.0件	7件
③ 1年次の保護者行事参加率（%） ※2	19.6%	37.5%
④ 転退学率（%）	5.6%	4.9%
⑤ 教職員の超過勤務時間（時間/月/人）	21時間40分	16時間40分
⑥ 翌年度の入学者選抜試験倍率	0.81倍	1.22倍

※1 いじめの判定基準の厳格化の差異により、令和3年度の数値（6件）を計算に加えていない。

※2 夏期休業中に実施の「保護者座談会」

1. 本校の沿革、教育の概要 等
2. 令和5年度当初の状況とそこからの気づき
3. 令和6年度の成果(過去3ヶ年平均との比較)
- 4. 令和5年度からの3ヶ年における主な取組**
5. 5つのアクションによる教育のアップデートの具体
 - (1) アクション1 : スクールポリシーの策定
 - (2) アクション2 : アセスメントツールの導入と活用
 - (3) アクション3 : パッケージ化した職員校内研修の実施
 - (4) アクション4 : 新・生徒指導部の立ち上げ
 - (5) アクション5 : 「生徒指導提要」に基づく委員会の組織改編
6. 成果・課題と今後について

3年間の主な取組 5つのAction

HOP

令和5年度
(1年目)

- スクール・ポリシーの策定、教育計画のアップデート
- アセスメントツールの変更検討（Q-Uからアセス・B-SAFEへ）
 - ・ いじめ防止基本方針の改定、及びその委員会の組織の見直し

STEP

令和6年度
(2年目)

- ・ アセスメントツール（アセス・B-SAFE）の本格導入と運用開始
- パッケージ化した職員校内研修の年間計画への位置づけと運用
 - ・ 生徒指導に関する分掌・委員会の組織の見直し

JUMP

令和7年度
(3年目)

- 新しい生徒指導部の活動開始
- 新しい3つの委員会の活動開始
 - ・ パッケージ化した職員校内研修の運用（2年目）

一人ひとりを伸ばし輝かせる教育の実現

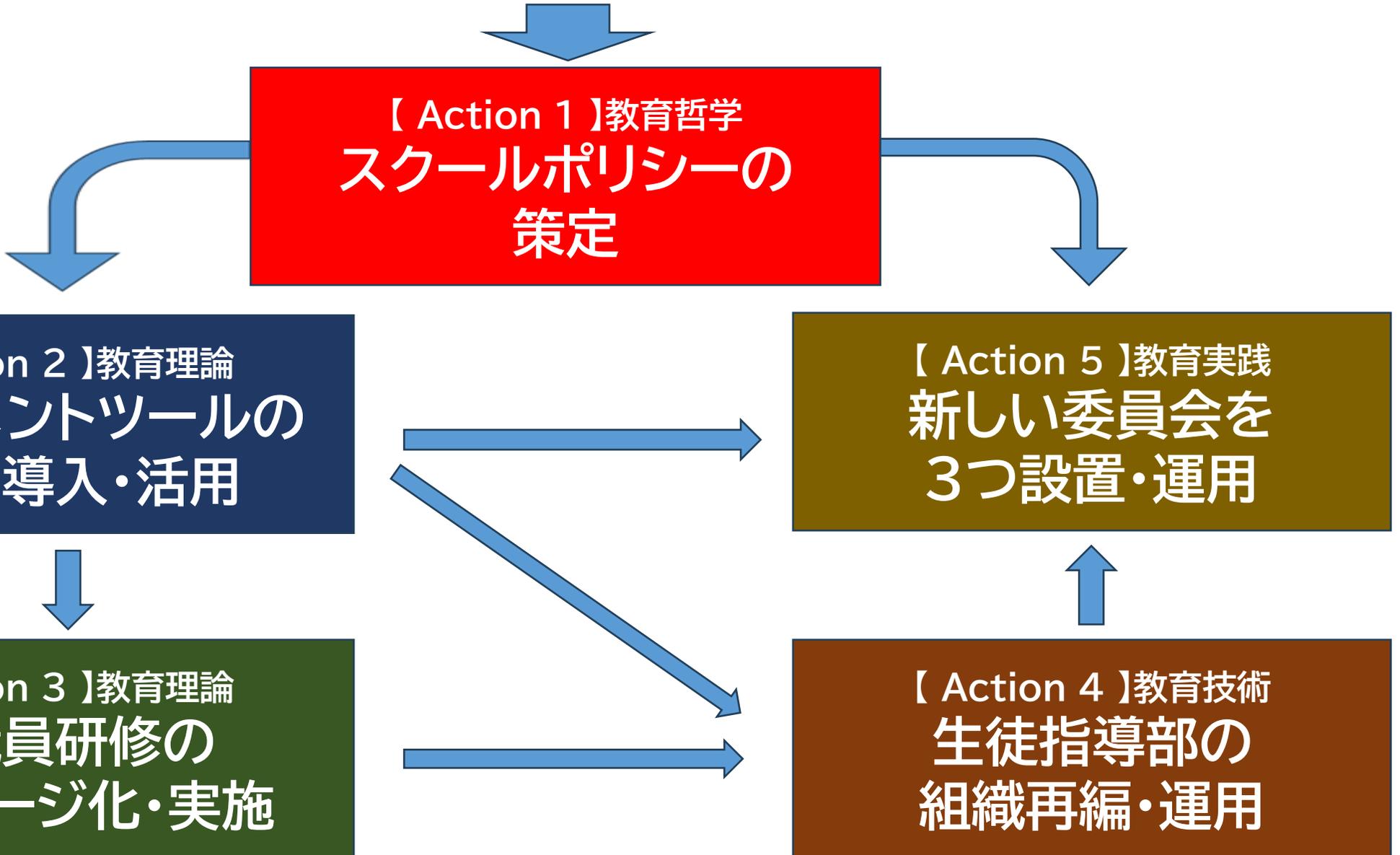
【 Action 1 】教育哲学
スクールポリシーの
策定

【 Action 2 】教育理論
アセスメントツールの
検討・導入・活用

【 Action 3 】教育理論
教職員研修の
パッケージ化・実施

【 Action 5 】教育実践
新しい委員会を
3つ設置・運用

【 Action 4 】教育技術
生徒指導部の
組織再編・運用



1. 本校の沿革、教育の概要 等
2. 令和5年度当初の状況とそこからの気づき
3. 令和6年度の成果(過去3ヶ年平均との比較)
4. 令和5年度からの3ヶ年における主な取組
5. **5つのアクションによる教育のアップデートの具体**
 - (1) **アクション1 : スクールポリシーの策定**
 - (2) アクション2 : アセスメントツールの導入と活用
 - (3) アクション3 : パッケージ化した職員校内研修の実施
 - (4) アクション4 : 新・生徒指導部の立ち上げ
 - (5) アクション5 : 「生徒指導提要」に基づく委員会の組織改編
6. 成果・課題と今後について

スクールポリシー作成の基本コンセプト

スクールポリシーは

- ① 社会のニーズを捉えており、
- ② 理論（教育学的理论、心理学的理論）的に正しく、
- ③ そのポリシーの中にストーリー性を感じて、納得しやすく
- ④ 実際に取り組む際も、無理なく、当たり前の様に出来て、
- ⑤ “いつでも、どこでも、だれにでも” と、適応の幅も広い ため

そのポリシーに基づいて、組織的に教育を行えば、

- ⑥ “教育の成果”が、より良いかたちでハッキリと現れ、
- ⑦ 結果的に、生徒も、保護者も、地域も、職員も
みんなが Well-Beingになる（感じる）

と思えるポリシーを “心耕学園” の流れを汲む本校で 策定する



グラデュエーションポリシー

〈教育目標〉 自主自立の精神に富み、情操豊かで希望に輝く生徒の育成

我々の共通の目的・願いとする！

01

精神的な自立

自分に向き合って、自分で自分を成長させていける力を育みます。

02

社会的な自立

当事者意識を持ち、より良い社会づくりに取り組む力を育みます。

03

経済的な自立

将来の経済的基盤を確保できる職業人に必要な準備力を育みます。

04

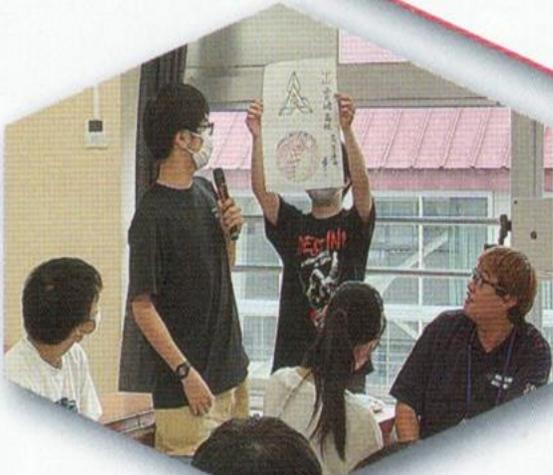
希望への輝き

夢と希望の達成に向けて、粘り強く取り組んでいく力を育みます。

05

ゆたかな情操

他者への思いやりと敬意を基本に、他者とかかわる力を育みます。



カリキュラムポリシー作成の基本方針

次の2つを連携・連動させ、生徒を育てる！

生徒指導提要

令和4年12月

文部科学省

 文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN

連携・連動

高等学校

学習指導要領(平成30年告示)

平成30年3月 告示

 文部科学省

カリキュラムポリシー

本校では生徒の発達、成長を考慮し、下のStep1からStep6までを積み上げて、資質・能力を育みます。

■ Step6 自己決定する機会

● Step5 教育資源有効活用

● Step4 P D C Aサイクル

● Step3 学びの価値の実感

■ Step2 自己存在感の感受

■ Step1 安全・安心な空間

- 生徒指導提要から3つ (■)、学習指導要領から3つ (●) を抽出
 - 6項目を【マズローの欲求5段階説】を参考にSTEP-UPさせる形に整理
- ※下からの積み上げを図り、
グラデュエーションポリシーの実現へ
- 実際の指導場面では集団の状態を見て、各STEPを組み合わせた指導

備考) ■は「生徒指導提要」、●は「学習指導要領」から3つ概念として抽出したものである

1. 本校の沿革、教育の概要 等
2. 令和5年度当初の状況とそこからの気づき
3. 令和6年度の成果(過去3ヶ年平均との比較)
4. 令和5年度からの3ヶ年における主な取組
5. 5つのアクションによる教育のアップデートの具体
 - (1) アクション1 : スクールポリシーの策定
 - (2) アクション2 : アセスメントツールの導入と活用**
 - (3) アクション3 : パッケージ化した職員校内研修の実施
 - (4) アクション4 : 新・生徒指導部の立ち上げ
 - (5) アクション5 : 「生徒指導提要」に基づく委員会の組織改編
6. 成果・課題と今後について

文科省「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」

COCOLOプラン

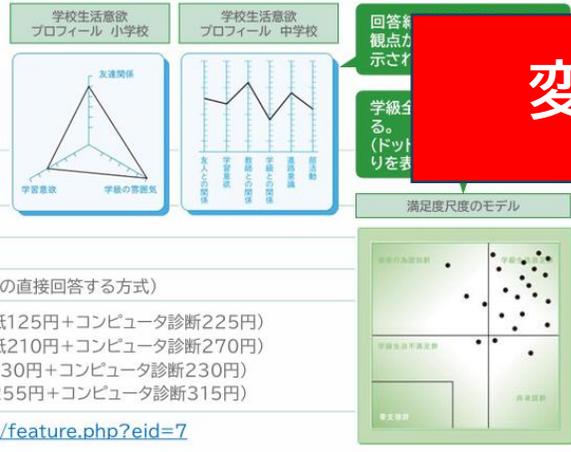
〈別添2〉「学校風土把握ツール」

～令和5年度 Hyper-QU

05.ツール紹介① Q-U / hyper-QU



特徴	<p>Q-Uは①「学校生活意欲」、②「学級満足度」の2つの尺度から、hyper-QUは①「学校生活意欲」、②「学級満足度」、③「ソーシャルスキル尺度」の3つの尺度から構成されており、子どもたちの学校生活における満足度と意欲、さらに学級集団の状態を調べることができるもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Q-Uは標準化されていて、妥当性と信頼性が保証されている。 ・ 充実したアフターフォローがある(解説書籍、協力団体である日本教育カウンセラー協会をはじめとした各地のQU講師ネットワークによる本ツールの活用研修会実施、校内会議で活用できる研修動画等)。 ・ WEB上でデジタル帳票「QUクイックシート」の閲覧も可能(図書文化の展開する教育プラットフォームへの登録が必要)。
設問数	<p>Q-U小学1～3年用 21問 Q-U小学4～6年用 23問 hyper-QU小学1～3年用 33問 hyper-QU小学4～6年用 39問 Q-U中学用 46問 hyper-QU中学用 64問 Q-U高校用 46問 hyper-QU高校用 79問</p>
適用学年	<p>小学校1～3年／小学校4～6年／ 中学校1～3年／高等学校1～3年</p>
実施時間	約15分～20分間
実施頻度	年1回～2回
回答方法	マークシート方式 (小1～3年用は調査用紙への直接回答する方式)
価格(税込) ※1人1回あたり	<p>小学中学用Q-U : 各350円(検査用紙125円+コンピュータ診断225円) 小学中学用hyper-QU : 各480円(検査用紙210円+コンピュータ診断270円) 高校用Q-U : 360円(検査用紙130円+コンピュータ診断230円) 高校用hyper-QU : 570円(検査用紙255円+コンピュータ診断315円)</p>
HP	http://www.toshobunka.co.jp/books/feature.php?eid=7



令和6年度～ アセス

05.ツール紹介③ ASSESS



特徴	<p>学校環境適応感尺度「アセス」(ASSESS:Adaptation Scale for School Environments on Six Spheres)は、①全体的な適応感である「生活満足感」②教師サポート ③友人サポート ④向社会的スキル ⑤被害感がないかという「非侵害の関係」⑥学習の適応 の6観点で構成され、子どもたちの学校における適応感を多面的に測定する。「ASSESS」は子どもたちの学校における適応感を多面的に測定するツールであり、「B-SAFE」はネットいじめを含むいじめの実態把握に加え、いじめ対策に必要な指導や支援を考えるツール。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校での適応感と全体的適応感とのズレから、把握が難しい家庭などの学校以外の場での適応感を把握可能。 ・ 学級安全調査(B-SAFE)とセットで調査することで、ネットいじめを含むいじめの実態把握に加え、必要な指導や支援を考えることができる。 ・ アンケート設問数が34問と少なく、短時間で実施が可能。
設問数	34問
適用学年	小学校3～6年(小1・2用は参考用で提供) 中学校1～3年／高等学校1～3年
実施時間	約10分間
実施頻度	1回でも可能だが、データに基づく教育実践促進のため年3回程度を推奨(5月末、11月、2月等)
回答方法	1人1台端末等を用いてWeb上で回答
価格(税込) ※1人1回あたり	<p>Web版1人あたり : 275円(税込) 3回セット : 660円(税込) アセス・B-SAFE年間セット (アセス3回+B-SAFE3回) : 1,100円(税込) 自治体での一括申し込みの場合、すべてこの価格の半額で提供</p>
HP	https://aises.info/survey/assess/#ass-7



引用：文部科学省ホームページより

アセスを選んだ主な理由

① 多角的な生徒理解に役立つ（情報量の多さ）

・教職員が知りたい “生徒情報”（生徒の認知）が入手できる

- 対人適応（教師サポート、孤立感、いじめられ感、自分から人に関わる力）
- 学習適応
- 家庭環境の影響（推測）
- 集団の特徴

② 生徒個人と学級集団を関連させた「支援策」の具体を作りやすい

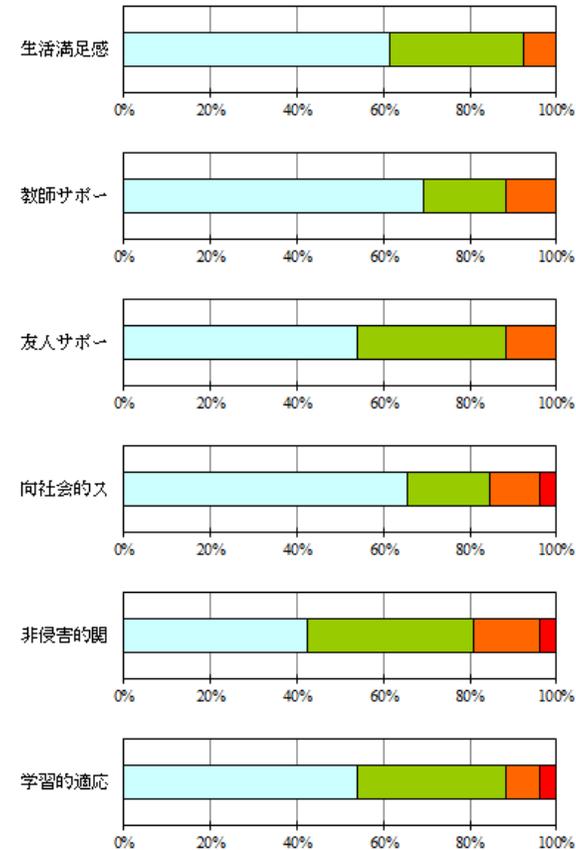
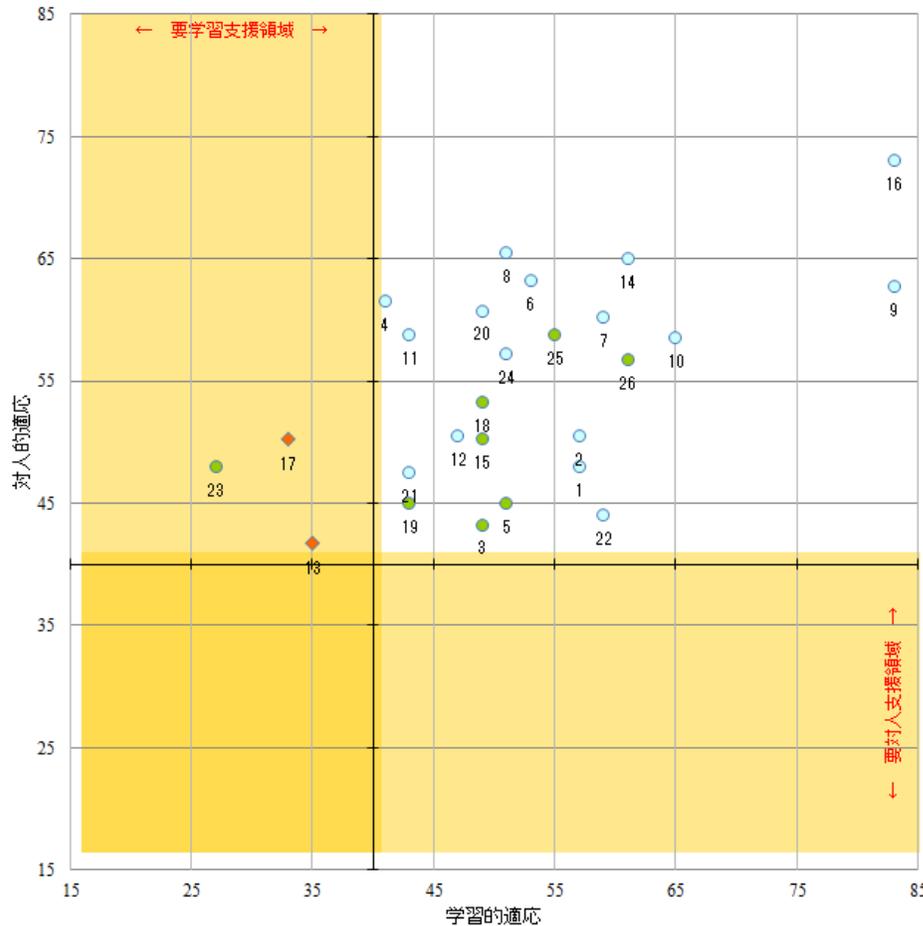
- ・六角形のレーダーチャートの形から、生徒の困り感のポイントも分かる
- ・支援策をつくるヒント(リソース)も分かる

③ 学校に導入しやすい

- ・価格（B-SEAF とあわせ、各々年3回の実施の場合で、合計 1,000円）
- ・タブレット入力 → 即、結果の出力と利用

学級集団の特徴が分かる → 学級集団の支援策づくりへ

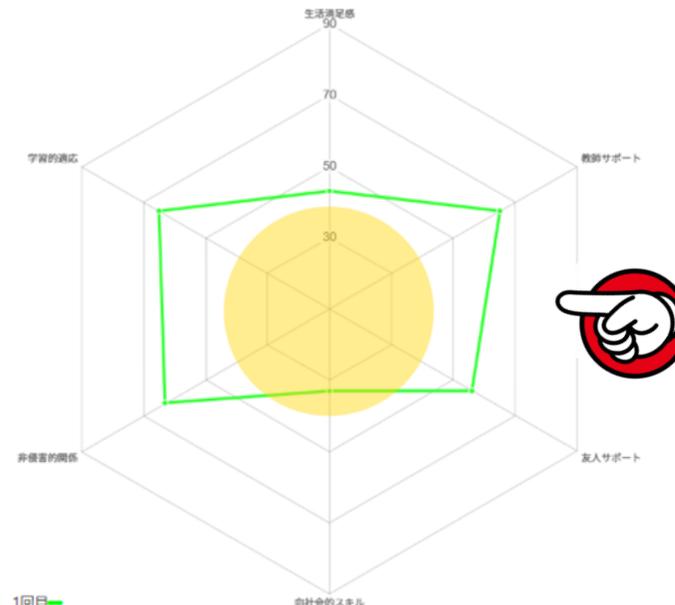
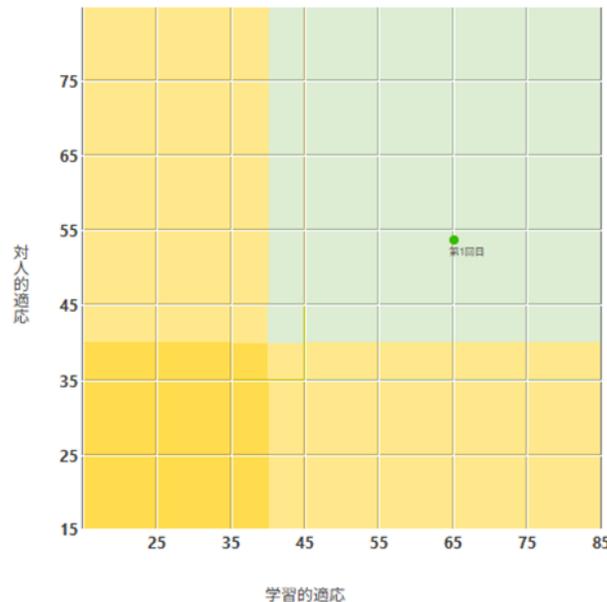
アセスの結果シート (クラス診断表)



生徒個人の特徴が分かる → 生徒個人の支援策づくりへ

アセスの結果シート（個人特性表）

適応次元	第1回目	最終回のコメント	適応次元の特徴
生活満足感	43	特になし。	生活全体に対して満足や楽しさを感じている程度で、総合的な適応感を示します。
教師サポート	65	特になし。	担任の支援があるとか、認められているなど、担任との関係が良好だと感じている程度を示します。
友人サポート	56	特になし。	友だちからの支援があるとか、認められているなど、友人関係が良好だと感じている程度を示します。
向社会的スキル	33	友だちにかかわる力がやや低くなっています。友だちとのかかわりを確認しましょう。	友だちへの援助や友だちとの関係をつくるスキルをもっていると感じている程度を示します。
非侵害的関係	63	特になし。	無視やいじわるなど、拒否的・否定的な友だち関係がないと感じている程度を示します。
学習的適応	65	特になし。	学習の方法もわかり、意欲も高いなど、学習が良好だと感じている程度を示します。



※新潟県立出雲崎高校ホームページのトピック、お知らせから研修資料を見ることができます

文科省「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」 COCOLOプラン

引用：文部科学省ホームページより

目指す姿

1

— P5

不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、
学びたいと思った時に学べる環境を整えます。

- ✓ 一人一人のニーズに応じた多様な学びの場*が確保されている
* 不登校特例校、校内教育支援センター(スペシャルサポートルーム等)、教育支援センター等、こども家庭庁と連携し多様な学びの場、居場所を確保
- ✓ 学校に来られなくてもオンライン等で授業や支援につながるができる
- ✓ 学校に戻りたいと思った時にクラスを変えたり、転校したりするなど本人や保護者の希望に沿った丁寧な対応がされている



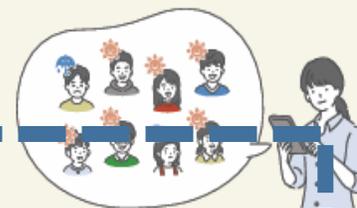
2

— P7

心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援します。

- ✓ 1人1台端末で小さな声が可視化され、心の不安や生活リズムの乱れに教師が確実に気付くことができる
- ✓ 小さなSOSに「チーム学校」で素早く支援することにより、早期に最適な支援につなげられている
- ✓ 教育と福祉等が連携し、子供や保護者が必要な時に支援が行われる*

* こども家庭庁と連携し自治体の教育部局と福祉部局等の連携・協働を強化



3

— P9

学校の風土の「見える化」を通して、
学校を「みんなが安心して学べる」場所にします。

- ✓ それぞれの良さや持ち味を生かした主体的な学びがあり、みんなが活躍できる機会や出番がある
- ✓ トラブルが起きても学校はしっかり対応してくれる安心感がある
- ✓ 公平で納得できる決まりやルールがみんなに守られている
- ✓ 障害や国籍言語等の違いに関わらず、色々な個性や意見を認め合う雰囲気がある



アセスの
姉妹品
B-SAFE
の活用

姉妹品 B-SAFE の使いやすさ

① いじめ調査のアンケートとして、そのまま使える

- ・ いじめの程度(頻度、軽重)も推測できる
- ・ ネットいじめも把握できる
- ・ 集団のなかの生徒のポジションも推測できる

(いじめられそうな子、いじめそうな子、傍観者になりそうな子 等)

② “学級風土”の見える化で、「安心して学べる」場所づくりのポイントが分かる

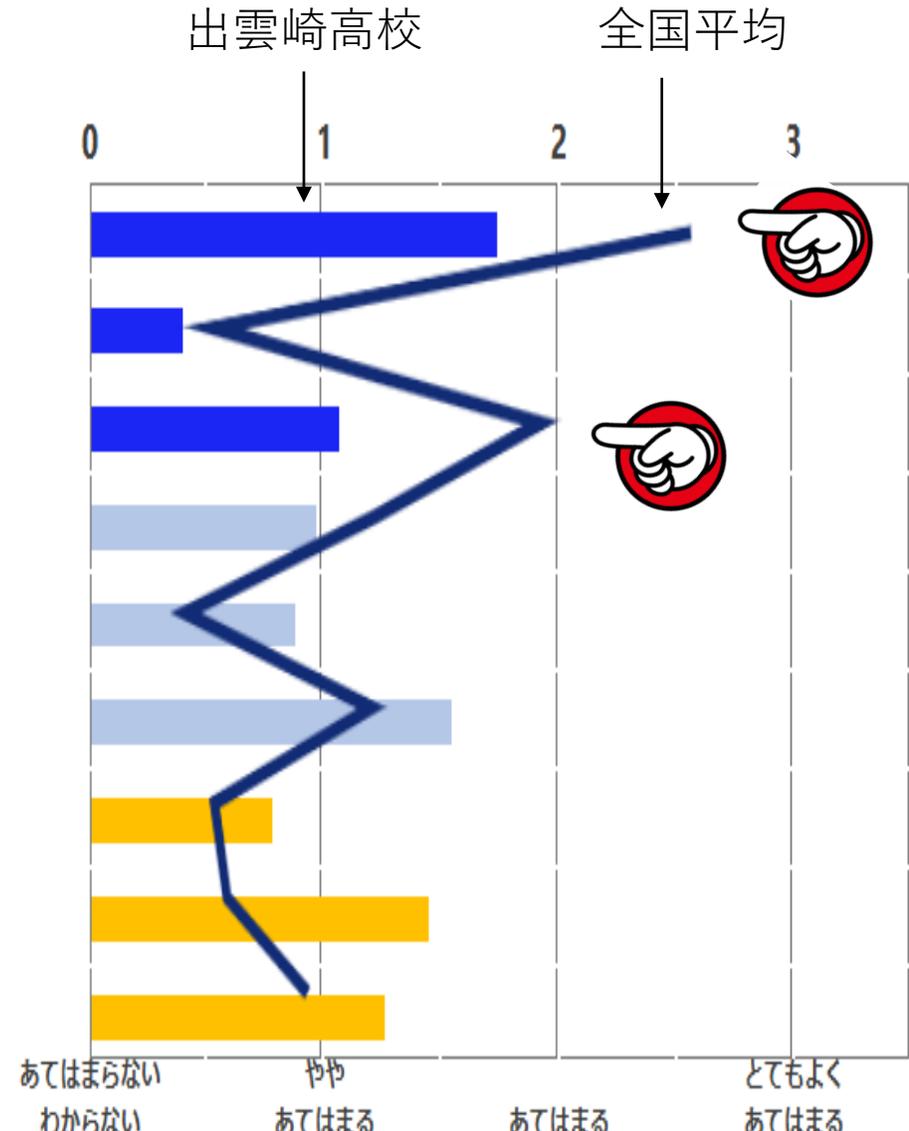
- ・ 9つの項目で分析 → 戦略的な“学級(学校)経営”に取り組める！

③ 学校に導入しやすい

- ・ 価格
- ・ タブレット入力 → 即、結果の出力と利用

学級風土の特徴が分かる → 学級風土の支援策づくりへ

分類	名称	具体的な質問項目
協力調和風土	規則遵守風土	<u>約束や社会のきまりを守ろうとする考えが学校にある</u>
	家庭地域連携	保護者と一緒に夏休みに学校清掃するなど、保護者が学校に来る機会がある
	学級協力風土	<u>学級にはみんなで協力しようという雰囲気がある</u>
いじめ防止	被害者理解	いじめられている人は何も悪くないと学校で教わっている
	対応組織	いじめをとめるように活動する係や委員会がある
	対応学習	学校ではいじめをとめる方法について学ぶ授業がある
スキル向上	ストマネ訓練	イライラしても上手にスッキリする方法を学校で学んでいる
	ブレスト訓練	たくさんの解決策を考える練習を学校でしている
	関係構築活動	自分の学級でみんなが仲良くなるような活動をよくする



1. 本校の沿革、教育の概要 等
2. 令和5年度当初の状況とそこからの気づき
3. 令和6年度の成果(過去3ヶ年平均との比較)
4. 令和5年度からの3ヶ年における主な取組
5. 5つのアクションによる教育のアップデートの具体
 - (1) アクション1 : スクールポリシーの策定
 - (2) アクション2 : アセスメントツールの導入と活用
 - (3) アクション3 : パッケージ化した職員校内研修の実施**
 - (4) アクション4 : 新・生徒指導部の立ち上げ
 - (5) アクション5 : 「生徒指導提要」に基づく委員会の組織改編
6. 成果・課題と今後について

アセス・B-SAFEのパッケージ化による職員校内研修

回	月		備考	研修時間
1	4月	第1回生徒理解の会		2hr
2	4月	「アセスの見方」研修会	(ゲートキーパー研修を含む)	1hr 20min
3	4月	「B-SAFEの見方」研修会	(ネットトラブル研修を含む)	1hr 20min
4	5月	第1回生徒情報共有・研修会	アセス結果の分析・支援策作成演習	1hr 20min
5	6月	第2回生徒情報共有・研修会	B-SAFE結果の分析・支援策作成演習	1hr 20min
6	8月	第2回生徒理解の会	アセス、B-SEFEを含めた生徒理解	1hr 20min
7	12月	特別支援教育研修会	(特別支援の基礎知識とスキル)	1hr 20min
8	1月	生徒指導研修会	(生徒指導の基礎知識とスキル)	1hr 20min
9	1月	第3回生徒情報共有・研修会	アセス、B-SEFEをセットにした演習	1hr 20min
			パッケージ化した研修の合計時間	12hr 40min

このパッケージに含めていない他の研修（人権教育・同和教育研修会、魅力ある学校づくり委員会の研修）もあり

1. 本校の沿革、教育の概要 等
2. 令和5年度当初の状況とそこからの気づき
3. 令和6年度の成果(過去3ヶ年平均との比較)
4. 令和5年度からの3ヶ年における主な取組
5. 5つのアクションによる教育のアップデートの具体
 - (1) アクション1 : スクールポリシーの策定
 - (2) アクション2 : アセスメントツールの導入と活用
 - (3) アクション3 : パッケージ化した職員校内研修の実施
 - (4) アクション4 : 新・生徒指導部の立ち上げ**
 - (5) アクション5 : 「生徒指導提要」に基づく委員会の組織改編
6. 成果・課題と今後について

【分掌】 生徒指導に関する分掌組織の見直し

生徒指導と支援教育の一体的運用へ

～令和6年度

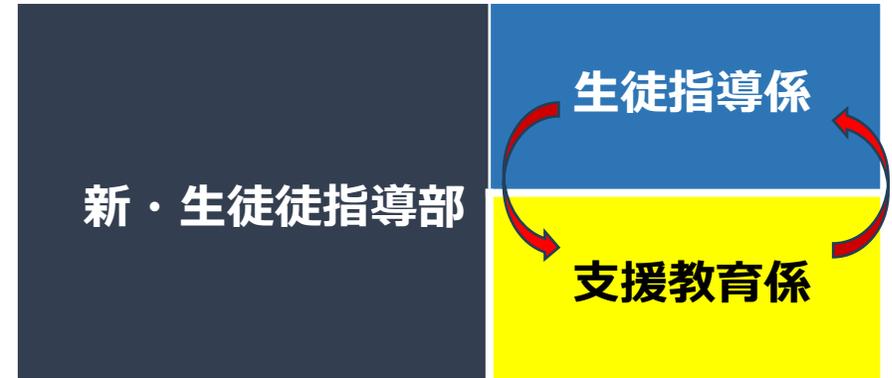


生徒指導提要

令和4年12月
文部科学省

文部科学省

令和7年度～



組み合わせ
変更

支援教育部

生徒会指導部

新・生徒指導部

1) 構成員

- 生徒指導係 4名
- 支援教育係 3名

2) 業務の一部変更

(**廃止**) ・校則違反等があった際の指導案の作成・提案、及び指導
(→ 問題認知時対応委員会の業務に移行する) ※後述

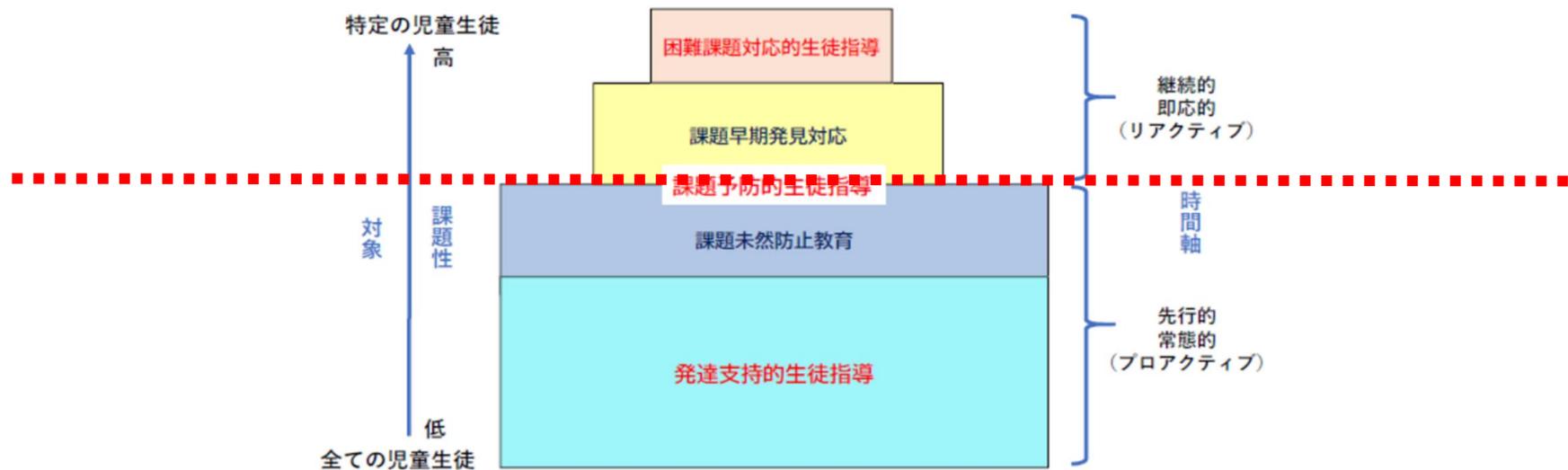
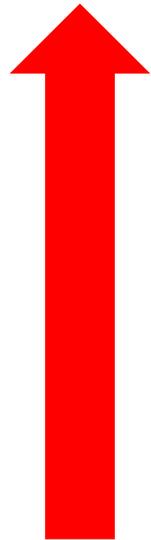
(**追加**) ・アセス、B-SAFEの管理
それに付随するパッケージ化した教職員研修の企画・運営
+
・校則違反等の生徒を特別指導する際に用いる指導ツールの管理
(例)
○反省日誌 ○ルーティンチェック表 ○ライフライン ○ロールレター
○エゴグラム ○You-tube動画視聴 ○ストレスコーピング 他

1. 本校の沿革、教育の概要 等
2. 令和5年度当初の状況とそこからの気づき
3. 令和6年度の成果(過去3ヶ年平均との比較)
4. 令和5年度からの3ヶ年における主な取組
5. 5つのアクションによる教育のアップデートの具体
 - (1) アクション1 : スクールポリシーの策定
 - (2) アクション2 : アセスメントツールの導入と活用
 - (3) アクション3 : パッケージ化した職員校内研修の実施
 - (4) アクション4 : 新・生徒指導部の立ち上げ
 - (5) アクション5 : 「生徒指導提要」に基づく委員会の組織改編**
6. 成果・課題と今後について

【委員会】再編の発想

リアクティブな指導・支援は、『顔の見える関係』を活かしたメンバーを中心に組織する

【スクラップ】 即応的・継続的(リアクティブ)が求められる困難課題案件 (減少)



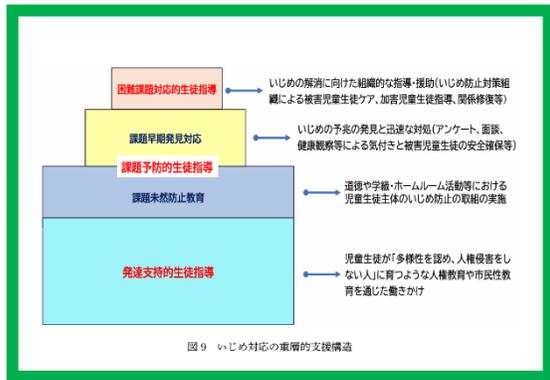
【ビルド】 教育課程を中心とした常態的・先行的(プロアクティブ)な教育活動
=カリキュラムポリシーによるマネジメント (充実)

プロアクティブな指導・支援を充実させれば、問題も減るはずである との考えを生かす

【委員会】“いじめ関係”の委員会を見直し、機能する委員会へ再編

(令和5年度)

- ・いじめ認知時対応委員会
- ・いじめ防止対策委員会



機能
2分割

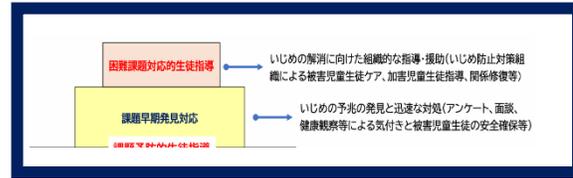
※分掌主任・主事での同一構成員

いじめ対応

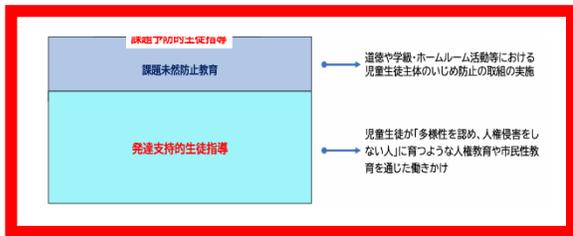
少年非行
暴力行為
ネットトラブル等

(令和7年度～)

- ・いじめ認知時対応委員会
※年次主任・担任等を含む構成員



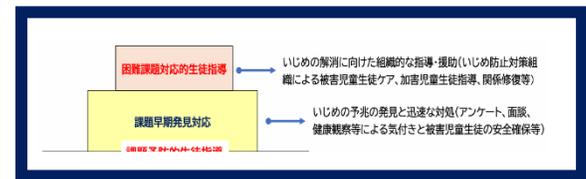
拡大



拡大

- ・いじめ防止対策委員会
※分掌主任・主事での同一構成員

- ・問題認知時対応委員会
※年次主任・担任等を含む構成員



- ・魅力ある学校づくり委員会
(・いじめ防止対策委員会)
※全教職員

いじめ防止対策

幅広い魅力化



〈新しい委員会①〉 問題認知時対応委員会

1) 構成員

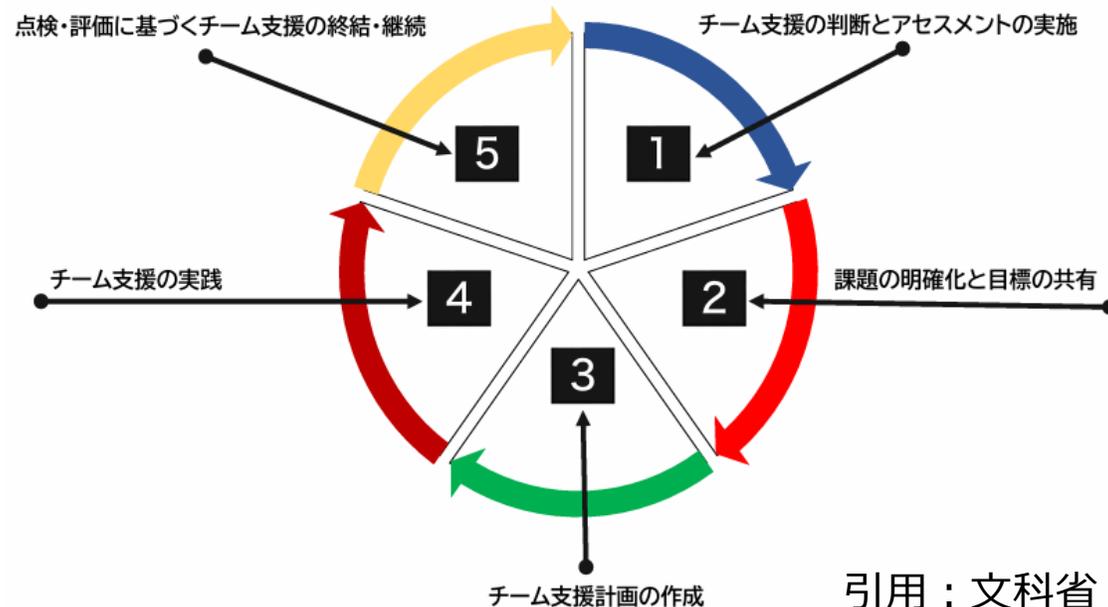
〈7名〉 校長、教頭、生徒指導係(主事)、該当生徒の学年主任、担任、支援教育係(特支Co)、養護教諭

2) 取り扱う内容

・いじめ、少年非行、暴力行為、ネットトラブル 等々

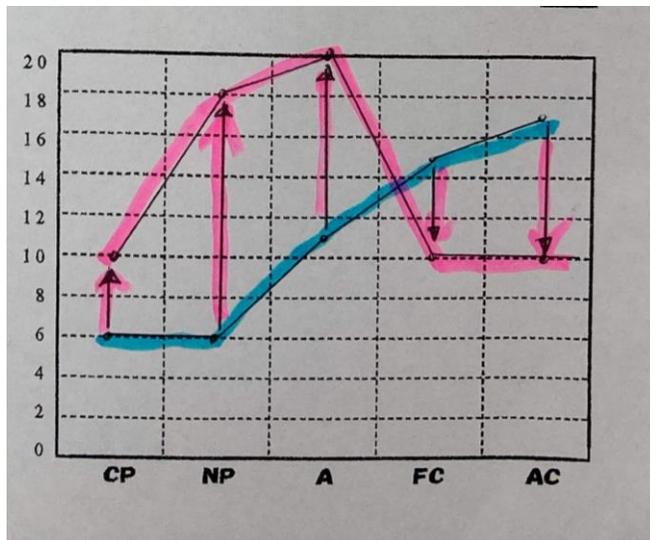
3) 取組の流れ

・上記の問題行動を認知した際の指導案(チーム支援計画)の作成・提案、及び指導



引用：文科省「生徒指導提要」より

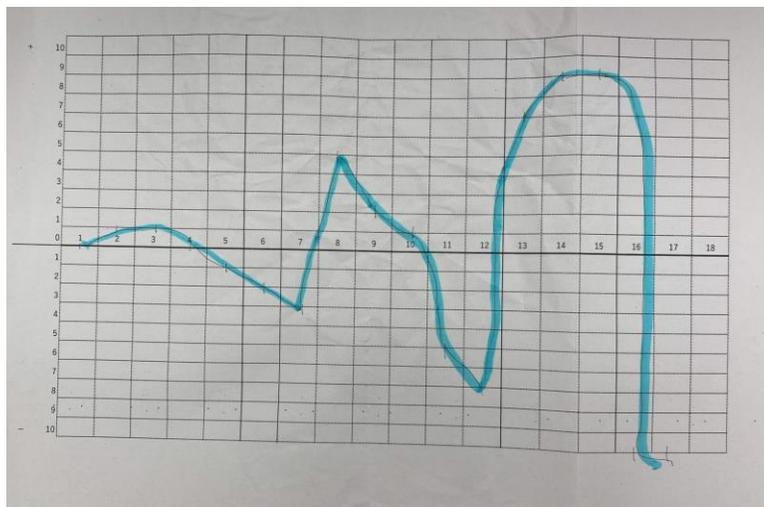
個別最適を目指す指導プログラムの例



←エゴグラム
(理想の自分 & 現実の自分)

ルーティンチェック表→
※子どもの自己指導能力を
育てるために、親子で協力
して作っていただきました。

ライフライン→



大会会場で直接ご確認ください

ルーティンチェック表は
(株) 原田教育研究所の開発によるものです。

“リアクティブな生徒指導”に対応する 委員会を2つ新設

(令和7年度～)

不登校
自傷行為
自殺企図
児童虐待
中途退学
性に関する課題等

支援事案認知時対応委員会

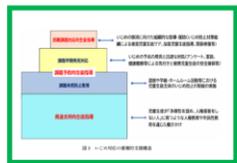
※学年主任・担任等を含む構成員



抱え込みを防ぐ

いじめに関する委員会の見直し

- いじめ認知時対応委員会
- いじめ防止対策委員会
- ※分掌主任・主事での同一構成員



機能
2分割

- いじめ認知時対応委員会
- ※学年主任・担任等を含む構成員



拡大

- いじめ防止対策委員会
- ※分掌主任・主事での同一構成員

幅広い魅力化

少年非行
暴力行為
ネットトラブル等

- 問題認知時対応委員会
- ※学年主任・担任等を含む構成員



拡大

- 魅力ある学校づくり委員会
- (いじめ防止対策委員会)
- ※全教職員

問題認知時対応委員会

この2つの委員会により
「生徒指導提要」
第II部の事案を
全て組織対応できる

〈新しい委員会②〉 支援事案認知時対応委員会

1) 構成員

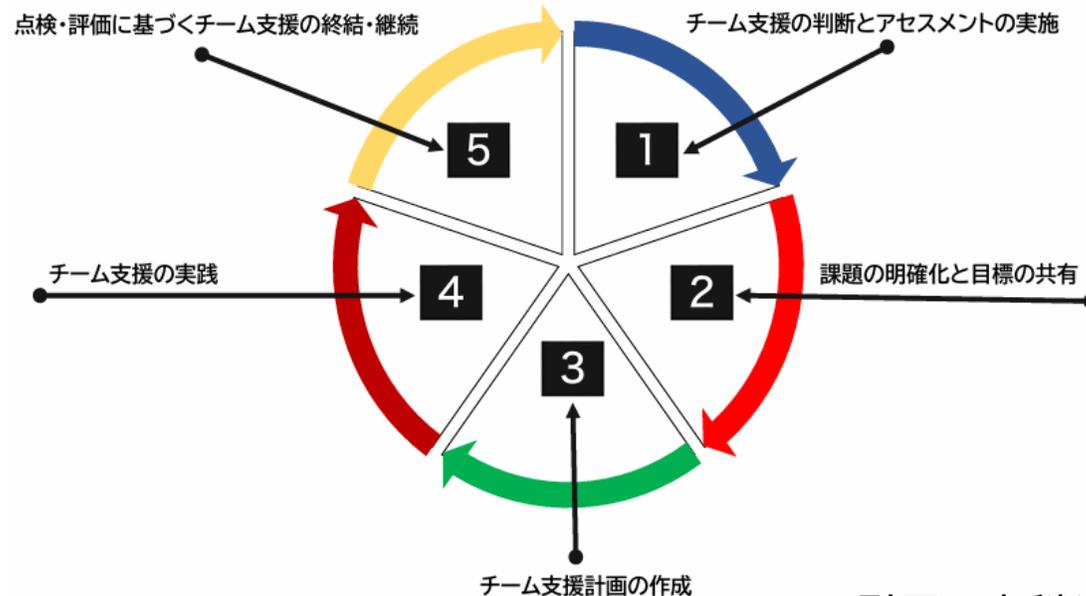
〈 7名 〉 校長、教頭、支援教育係(特支Co)、該当生徒の学年主任、生徒指導係(主事)、養護教諭、担任

2) 取り扱う内容

・不登校、自傷行為、自殺企図、児童虐待、中途退学、性に関する課題 等々

3) 取組の流れ

・上記の支援事案を認知した際の支援案(チーム支援計画)の作成・提案、及び支援



〈新しい委員会③〉 魅力ある学校づくり委員会

1) 構成員

校長、教頭、全教職員

2) ねらい

○プロアクティブな生徒指導を促進するように、教育のアップデートを図る
(→ あわせて、リアクティブな生徒指導を減らしていく)

3) 取組

○魅力ある学校づくりの具体を考える場とする (職員研修の場)
……スクールポリシーの達成に向けた教育について検討
……現在の状況等を分析し、それに基づく教育について検討 等

※教職員が“主体的、対話的で深い学び”を率先して体験する場へ
※教職員のアントレプレナーシップを育む場にもしていきたい

(現在、取組に遅れが見られていますが、現在2回実施しました。)

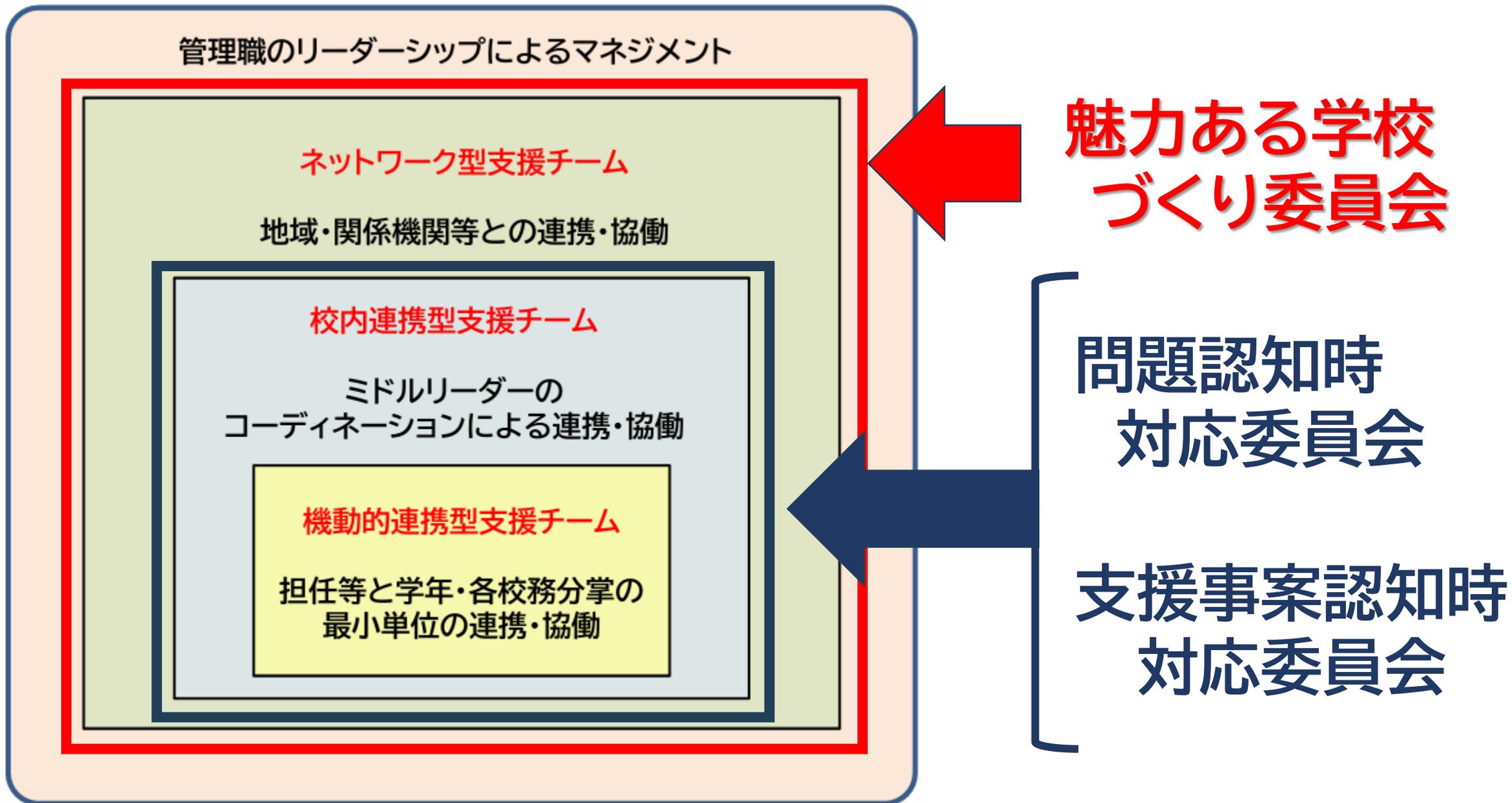


図6 支援チームの形態

引用：文科省「生徒指導提要」より

1. 本校の沿革、教育の概要 等
2. 令和5年度当初の状況とそこからの気づき
3. 令和6年度の成果(過去3ヶ年平均との比較)
4. 令和5年度からの3ヶ年における主な取組
5. 5つのアクションによる教育のアップデートの具体
 - (1) アクション1 : スクールポリシーの策定
 - (2) アクション2 : アセスメントツールの導入と活用
 - (3) アクション3 : パッケージ化した職員校内研修の実施
 - (4) アクション4 : 新・生徒指導部の立ち上げ
 - (5) アクション5 : 「生徒指導提要」に基づく委員会の組織改編

6. 成果・課題と今後について

一人ひとりを伸ばし輝かせる教育の実現

【 Action 1 】教育哲学
スクールポリシーの
策定

【 Action 2 】教育理論
アセスメントツールの
検討・導入・活用

【 Action 5 】教育実践
新しい委員会の
設置・運用

【 Action 3 】教育理論
教職員研修の
パッケージ化・実施

【 Action 4 】教育技術
生徒指導部の
組織再編・運用

課題

成果（全体俯瞰）

	令和3～5年度	令和6年度
① いじめ認知件数（件/年）	19.5件	12件
② 生徒指導件数（件/年）	24.0件	7件
③ 1年次の保護者行事参加率（%）	19.6%	37.5%
④ 転退学率（%）	5.6%	4.9%
⑤ 教職員の超過勤務時間（時間/月/人）	21時間40分	16時間40分
⑥ 翌年度の入学者選抜試験倍率	0.81倍	1.22倍

課題（全体俯瞰）

5つのアクション（①スクールポリシー、②アセスメントツール活用、③パッケージ化した職員研修、④新分掌、⑤新委員会）**の連動性を高め、かつ安定化させること**

(1) スクールポリシーの成果及び、 令和6年度以降の取組について

- 【成果】 ①基本コンセプトを活かして策定できた
②令和5年度当初に見られた“価値観の混乱”は見られなくなった
- 【課題】 ※令和5年度末時点で、今後の課題として考えられたこと
①スクールポリシーの意味を組織全体で共有し、本校の多様な生徒の現実と繋げて、現実的に機能させられるか？（教育串団子の実現）
- 【今後】 ※令和6年度以降、次の4つのアクションを展開する
①アセスメントツール（アセス・B-SAFE）の導入と活用
②パッケージ化した職員校内研修の実施
③生徒指導に関する〈新しい生徒指導部〉の再編
④生徒指導に関する〈新しい委員会〉の設置

(2) アセスメントツールの成果と課題、及び今後について

- 【成果】
- ① **学校風土の課題、生徒集団の課題、生徒個人の課題などが「見える化」され、捉えやすくなり、指導・支援策を考えやすくなった**
 - ② 教職員の精神的苦勞、時間的苦勞が減った

- 【課題】
- ① **教職員のスキルの向上**
 - ・ アセス、B-SAFE（結果）を用いたアセスメントのスキル
 - ・ アセスメント結果から指導・支援策を作成するスキル

- 【今後】
- ① パッケージ化したアセス・B-SAFEの研修の改善・工夫
 - ② **教職員個々が、日常的にアセス・B-SAFEを活用し、扱いに慣れる**
 - ③ アセス・B-SAFEの管理 → 新しい生徒指導部の再編 ※
 - ④ アセス・B-SAFEの活用 → 新しい委員会の再編 ※

※ 令和7年度より実施

(3) パッケージ化した職員研修の成果と課題、及び今後について

- 【成果】
- ① OFF-JTとOJTを連動させ、研修の質を高めることができている
 - ② スクールポリシー、アセスメントに基づく教育の必要性が理解され、浸透してきた
- 【課題】
- ① アセス、B-SAFEの研修の質的向上と安定化を如何に図るか？
 - ② プロアクティブな生徒指導の拡大に向け、「魅力ある授業づくりに関する研修」など、複数の研修パッケージが求められる
- 【今後】
- ① 持続可能な研修制度の確立と、学び続ける研修マインドの育成
(例：後継者を育てる、e-learning 契約、出雲崎町との包括連携協定を活かした講師の確保 等)
 - ② 研修パッケージを複数用意しての年間計画への位置づけ
(魅力ある授業づくりに関する研修パッケージ 等)

(4) 新しい生徒指導部の成果と課題、及び今後について

- 【成果】 ①生徒指導原案の作成を業務から外すことで、係（担当者）による問題対応の抱え込みを防止できた
- ② **アセスメントツールと指導・支援ツールを管理する環境が整った**
- 【課題】 ①従来の“生徒指導部”がもつイメージ（固定観念）の更新を図る
（生徒指導と支援教育は矛盾なく両立することの理解促進が必要）
- ② **新しい生徒指導部の業務内容の整理と具体的取組の促進**
（問題認知時対応委員会との関係性、業務分担の理解促進が必要）
- 【今後】 ①実際の活動を通じながら、取組の整理を図り、取組の周知を図る
- ② **ツールの管理に関するマニュアル化を進め、安定化を図る**

(5) 魅力ある学校づくり委員会の成果と課題、及び今後について

【成果】 ① **プロアクティブな生徒指導について検討しやすい組織ができた**
(「生徒指導提要」に基づく教育の実現への土台ができた)

【課題】 ① **組織的に検討を重ね、出来るところから確実にすすめる**
(B-SAFEから分かる課題点の改善、魅力ある授業づくり 等)
② 出雲崎町との連携・協働により、新しい発想を取り入れていく

【今後】 ① **実態を踏まえ、魅力ある授業づくりに関する検討を重ねる**
(“主体的な学習者”を育てる「分かる授業」→ 学力保障)
② キャリア教育に関する取組を地域社会と繋がり、形にしていく

(6) 問題認知時対応委員会の成果と課題、及び今後について

【成果】 ① **問題行動の背景を踏まえて、個別最適な指導・支援策を担当、学年主任、等を含めた組織で丁寧に考える組織が出来た**

※委員会での話し合いが、教職員の主体的・対話的で深い学びの場にもなり、職員の同僚性を高めている

②生徒の些細な問題行動にも組織で対応できるようになった

【課題】 ①問題行動をアセスメントするための専門性と質の高さが必要

②アセスメント結果からの指導・支援策の質を如何に確保するか？

③ **SC、SSWとの情報共有、及び そこからの専門性の活用が必要**

【今後】 ①取組の経験値を重ね、機能的で実践的なノウハウの蓄積

② **SC、SSWや教職員の専門性を尊重した意見交換の重視**
(特に5つのアクションによる教育のアップデートの理解促進)

(7) 支援事案認知時対応委員会の成果と課題、及び今後について

【成果】 ① 不登校等の支援事案を、担任が一人で抱え込まなくてよくなった

【課題】 ① 新入生の4～6月に支援事案が発生しやすく、その時期は多忙さも増すため、支援事案のアセスメントを丁寧に対応することも難しく、対応が後手になりやすい

③ アセスメントして、個別最適な支援策をつくる難しさがある
(保護者への支援等も加味した方がよい事案もある)
(SC、SSWとの情報共有、及び 専門性の活用が必要)

【今後】 ① 入学前から不登校経験者や保護者等との面談を実施し、超早期にアセスメントを行い、早期からの支援策(案)の作成が可能か否か、検討する必要がある

② ペアレントトレーニングの導入の検討

③ 取組の経験値を重ね、その分析を含めたノウハウの蓄積

今後について

“心耕学園”の歴史を汲む学校として



学校経営のあり方として

①教育哲学 ②教育理論 ③教育技術 ④教育実践

の4つが自然と一体化している“学校風土”を作り出し、

多様な社会を生き抜く力を培う定通教育を
広く発信していきたい



教育串団子

ご清聴
ありがとうございました